

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	名人紹介情報誌発行事業
事業主体 (連絡先)	小谷村 0261-82-3135
事業区分	地域共働の推進と保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	467,000円 (うち支援金: 350,000円)

事業内容

小谷村に存在するすべての人がかけがえのない存在であることを広報するため、日頃の活動に目を向け「名人」として月々4名(年間40名)を紹介。取材は専属の記者に委託し広報紙発行日に合わせ全戸配布を行った。

また情報誌掲載者の内3名に講話の機会してもらおう機会を設けることで、特別なことをすることだけが名人ではないことを周知。誰もがかけがえのない存在であることを伝えるため、情報誌掲載の意欲向上を図るとともに、周囲の人たちにも、「自分たちにもできるかもしれない。」という波及効果を期待した活動を行った。



【講話会の様子】

【目標・ねらい】

- ①当事者が自信を持って活動を続けられる。
- ②年齢に関わらず活動への原動力になる。
- ③貴重な人や技術を身近な存在であることを周知できる。
- ④新たな人材が掘り起こせる。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①情報誌の発行では、情報誌掲載者の自信につながり継続的に活動を続けていくための意欲につながった。

講話会には情報誌掲載者の積極的な参加もあり、

②年齢に関わらず誰もが主役であることや、高齢になっても活動していることの重要性を伝えられた。

③伝統的な技術だけでなく、身近な話題に注目することで志や何気ない日常にある活動が大切であることを伝えられた。

④日頃注目されがちな方だけでなく、様々なジャンルの方を紹介できたことで、新たな人材を掘り起こせた。

※自己評価【B】

【理由】

情報誌の反響が大きく、情報誌掲載者の活動への意欲につながった。自分たちが主役となり積極的に村を活性化したいという住民の声が聞かれるようになった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の取組により、ケアハウスいわかがみに住民を主体とした集いの場を開催していく方針となった。各地域に住民主体の活動の場が広がるように、講話会等を通じ情報誌掲載者の紹介等を継続的に行うことで活動周知の場を作っていく。

情報誌については継続発行の希望も出ているため、頻度を変更しつつも継続を検討していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある